

西国三十三霊場巡りマラニック

観音寺、三十三間堂、六波羅蜜寺、頂法寺、行願寺、東寺

二十年三月十九日

フル百回楽走会

593

武藤 翔峰

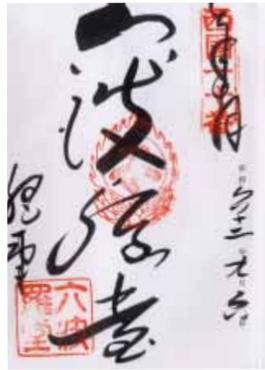
3月29日、中二の孫息子と一緒に、西国三十三観音霊場巡りで京都のお寺を巡ってきました。孫息子は14歳、テニス部の練習で鍛えているので日頃はキロ4分台で走るとのこと、孫の後について走るのが大変でした。

最初は15番観音寺に参りました。観音寺は「頭の観音」と言われ、「ぼけ封じ祈願」の寺としてよく知られており、私もぼけないようお祈りしました。次は付録編として三十三間堂へ走り、千体の観音様と感動の対面を果たしました。「三十三」という数は、観音菩薩の化身三十三身にもとづく数を表しているそうで、地上16メートル、奥行き22メートル、南北120メートルの長大なお堂は、手前からはるか彼方へ一点透視的に漸減する眺めで、胸のすく壮快さです。次に「平清盛坐像」がある17番六波羅蜜寺へ行き、更に円山公園、八坂神社を経て19番行願寺、18番頂法寺と走り、参りました。頂法寺の「本堂」を上空から見ると、その形が六角形であることから、「頂法寺」という正式名称よりも「六角堂」のほうが一般的な呼び名になっています。この辺りは京都の街中でも市街地に当たり、それだけに境内は狭く建造物が建て込んでいます。夫々の観音霊場では虎峰さんより教わった通りに、お線香とロウソクをあげ、般若心経を唱えて家族の無事安泰を祈りました。帰りのバスの時間までにまだ少し時間があつたので更に付録編として東寺にお参りしました。東寺は、空海(弘法大師)ゆかりの寺院で「古都京都の文化財」の一部として世界遺産に登録されています。金堂には像高2.9メートルに達する本尊の薬師三尊像が、講堂には大日如来をはじめとする21体の密教彫像が所狭しと安置されています。国宝、五重塔は高さ54.8メートルで木造塔としては日本一の高さを誇っており、満開の桜の中で悠然と立っていました。孫息子と駆け抜けた大変満足の西国三十三観音霊場巡り京都編でした。次回は奈良編です。

十五番 観音寺



十七番 六波羅蜜寺



十九番 行願寺



十八番 頂法寺



西国十五番 新那智山観音寺



十七番 補陀洛山六波羅蜜寺

白衣は自作です



西国十九番 霊ゆう山行願寺



西国十八番 紫雲山頂法寺

西国三十三霊場巡りマラニック 第十五番 新那智山 観音寺

フル百回楽走会

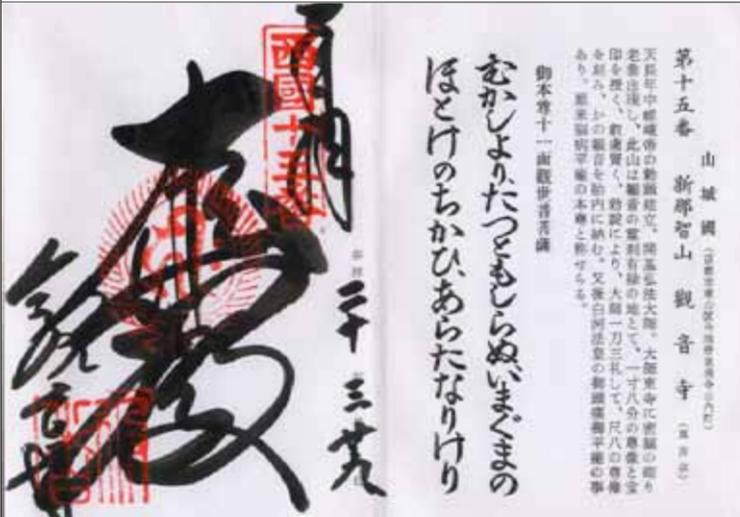
593

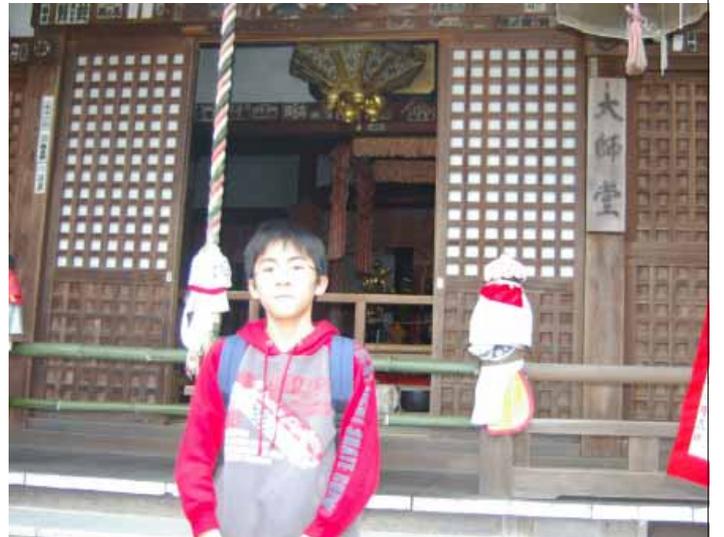
武藤 翔峰

二十年三月九日

まず最初に15番新那智山、観音寺(今熊野観音寺)を訪れた。宗派は真言宗泉涌寺派、本尊は十一面観世音菩薩、開基は弘法大師空海である。弘仁年間(825年頃)に弘法大師が熊野権現の化身から観音霊地の霊示を受け、嵯峨天皇の勅願により観音像を刻んで本尊とし草堂に安置したのが当寺の創始といわれている。後白河法皇は本尊を深く信仰し、霊験により持病の頭痛が平癒したので、本寺に「新那智山・今熊野」の名称を与えられ、以来、頭痛、中風、厄除けの観音として繁栄してきたという。この寺は「観音寺」の名称よりも、一般には「今熊野」や「今熊野観音」の呼び名の方で親しまれている。

観音寺は「頭の観音」といわれているように、「ぼけ封じ祈願」の寺としてよく知られており、私もぼけないようお祈りした。本堂に向かって右手には弘法大師を祀っている「大師堂」があり、入口階段横には「ぼけ封じ観音」が建てられている。観音寺を訪れた人は必ずといっていいほど、ぼけ封じのため「大師堂」と「ぼけ封じ観音」にお詣りする。ここを参拝した後、付録編として孫息子の強い希望で三十三間堂に向かって走ることにした。





西国三十三霊場巡りマラニック 付録編

●蓮華王院 三十三間堂

フル百回楽走会

593

武藤 翔峰

二十年三月十九日

正式名は、蓮華王院で、その本堂が「三十三間堂」と通称されている。これは、東面して、南北にのびるお堂正面の柱間が33もあるという建築的な特徴によるものと、「三十三」という数は、観音菩薩の变化身三十三身にもとづく数を表しているからだ。

平安後期、約30年の間、院政を行った後白河上皇が、自身の職住兼備の「法住寺殿・ほうじゅうじどの」と呼ぶ院御所内に、当時、権勢を誇った平清盛の資財協力によって創建したものだった。ところが、そのお堂は建長元年(1249)市中からの火災により焼失し、鎌倉期・文永3年(1266)に再建されたのが現存のものである。地上16メートル、奥行き22メートル、南北120メートルの長大なお堂は、和様、入母屋造り本瓦葺きで、手前からはるか彼方へ一点透視的に漸減する眺めは、胸のすく壮快さだ。左右、計千体の等身観音立像に囲まれて、お堂中央に安置されるのが丈六の坐像で「中尊・ちゅうそん」である。前後10列の階段状の壇上に整然と並ぶ等身大の1000体の観音立像は圧巻で、室内は、さながら“仏像の森”、感動の対面を果たすことができた。千体観音像の前には、観音二十八部衆に風神・雷神を加えた30体の等身大の尊像が安置されている。

この後、平清盛が祀ってある六波羅蜜寺に向かった。ここは教科書でも勉強したそうで、孫息子も強い関心を示していた。

